

第2学年 保健体育科学習指導案

指導者 塩嶋 幸代

1 単元名

傷害の防止

2 目標

- ・交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技術を身に付けることができる。(知識、技能)
- ・傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができる。(思考力、判断力、表現等)
- ・傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
速やかな胸骨圧迫、AEDの使用及びAEDなどを用いた心肺蘇生法ができる。	安全な社会生活について、自他や社会の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、道筋を立てて説明している。	応急手当について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、傷害の防止についての理解を深める学習である。この教材は、傷害の悪化を防止できることや命を救ったりすることができることを現実的に体験でき、実際に体験することで当事者意識を持つことができる。

また、いざ居合わせた人になったとき躊躇なく応急手当ができ、人命救助の場でも活躍が期待できSDG'sの目標3「すべての人に健康と福祉を」の達成にも貢献できる教材である。

(2) 生徒観

本学級は、男子13名・女子15名明るく、授業では、集中して取り組む姿勢がみられるものの、積極的に発言する生徒は偏っており、個人の活動全体に発信することを苦手としている生徒も見られる。1学期の授業では、お互いにアドバイスをしたり励ましたり、練習していた技が成功するとクラスみんなで喜ぶなど教師の声かけから良い雰囲気になる取り組みをしている。グループ活動や実習をとおして、積極的に意見の交換ができるようになってもらいたい。

また、応急手当は小学校での知識や理解は多少あるが、当事者としての意識は低い。本時の実習で、いつでも起こりうる事案として躊躇なく行動できる自信に繋げたい。

(3) 指導観

本時の始めは、ダミー人形の珍しさに騒がしくなることがあるが、実習をしていくにつれて真剣になり胸骨圧迫、AEDを使う以外でも居合わせた人ができることがあるということに気がつくことができ、いざというとき行動できるように繰り返し行う。

5 単元の指導計画及び評価計画（総時数8時間）

次	時	学習課題とまとめ	評価基準	評価		
				知	思	主
1	1	課題：私たちの身の回りで起こっている傷害（けが）は、どのようなことが要因となって起こっているのでしょうか。 まとめ：傷害の発生には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わり合って起こることを理解できる。	発言・ノート 観察	○		◎
1	2	課題：交通事故の発生には、どのような要因が関わっているのでしょうか。 まとめ：交通事故による傷害は、人的要因、環境要因及び車両要因が関わり合って起こることを理解できる	発言・ノート	○	◎	
1	3	課題：交通事故による傷害を防ぐには、どのような対策があるのでしょうか。 まとめ：交通事故による傷害を防ぐには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要である。	発言・ノート	○	◎	
1	4	課題：犯罪被害の発生に関わる要因やそれを防ぐ対策にはどのようなものがあるか。 まとめ：犯罪被害には、人的要因と環境要因が関わっており、それを防止するためには、危険を予測し安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避することが必要。	発言・ノート	◎		○
1	5	課題：大きな地震などの自然災害が発生したときには、時間と経過とともにどのような危険が現れるのでしょうか。 まとめ：地震などの自然災害による傷害は、発生直後に起こる一時災害、続いて起こる二次災害の防止が必要である。	発言・ノート 観察	◎		○
1	6	課題：災害時に安全を確保し、傷害を防止するにはどのようにしたらいいのでしょうか。 まとめ：地震などの自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要である。	発言・ノート	○	◎	
1	7	課題：応急手当をするのはなぜでしょうか。また、出血や骨折、捻挫などの応急処置はどのようにしたらよいのでしょうか。 まとめ：傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できる。手当の方法には止血法や包帯法などがある。	発言・ノート 観察	○	◎	

1	8	<p>課題：心肺停止に陥った人への応急手当の方法には、どのようなものがあるのでしょうか。正しく理解し、実習してみましょう。</p> <p>まとめ：心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解し、胸骨圧迫、AED 使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	<p>発言・ノート 観察</p>	◎		○
---	---	--	----------------------	---	--	---

6 本時の学習（1次 8時）

(1) ねらい

- ・心肺蘇生法を習得し SDG, S に貢献できるようにする。

(2) 学習過程

1～6 学習活動		時	●指導◇評価（観点）＜評価方法＞＊支援 【ICT】ICTの活用 研究の重点①重点②
○主な発問 ◎深める発問 ・主な意識の流れ			
1	<p>学習の課題をつかむ</p> <p>学習課題：心肺停止に陥った人への応急手当の方法には、どのようなものがあるのでしょうか。正しく理解し、実習してみましょう。</p>	2	＊前回の応急手当の振り返りをする。
2	<p>自分で考える</p> <p>◎意識がない傷病者に対し、居合わせた人ほどのような行動が必要か考えてみよう。</p>	2	<p>重点①心肺蘇生の方法を視聴する【ICT】</p> <p>●心停止・呼吸停止から数分で救命率が急激に下がるため、居合わせた人（bystander）が救急車の到着等を待たずに心肺蘇生を始めることが大切であることを強調する。</p> <p>また、死戦期呼吸にも注意が必要。死戦期呼吸を動画で確認する。</p> <p>●資料1～3を参考にしながら4つのグループに分かれ、ダミー人形を使って心肺蘇生法の方法、胸骨圧迫とAEDの使用方法について理解し、実習を行う。</p> <p>＜観察＞</p>
3	<p>自分の考えを伝え合う</p> <p>◎資料1,2,3を基に、意識がない傷病者に対し居合わせた人がどのような行動をとるべきか話し合う。</p>	10	
4	<p>みんなで考えを深める</p> <p>・グループに分かれて役割を決めてダミー人形を使って心肺蘇生の実習をする。</p>	25	
5	<p>発表する。</p> <p>心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解し、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	5	
6	<p>ふり返しをする</p> <p>◎学習ノートの技能の振り返りを記入する。</p>	6	

(3) 参観の視点に関する工夫点

- ・躊躇なく迅速にAEDを使うことができたか。

(4) 板書計画

心肺蘇生法

・胸骨圧迫、人工呼吸、AED

※死戦期呼吸に注意！